

アンテオケ宣教会信仰基準

1. 旧新約66巻からなる聖書は、それぞれの著者が神の靈感によって記したものであり神が救いについて人々に啓示しようとされた一切のことを含み信仰と生活との唯一絶対の規範である。神による靈感とは、人間によって記述された聖書の起源が神にあるということである。すなわち、聖霊の十全な指導と監督のもとに記されたので、いっさいの誤りより守られた権威ある神のことばであることを意味している。聖書は靈感されたゆえに客観的な神のことばであり、人間の経験の仕方如何によって神の言葉となるというのではない。
2. 活ける真の神は唯一であって、父、子、聖霊の三位において永遠より永遠まで存在される。
3. 神はみことばをもってすべてのものを創造された。すべての被造物は神の主権の下にある。
4. 主イエス・キリストは真の神であり、真の人であられる。主は聖霊によってみごもった処女マリヤより生まれ、人類の罪のため十字架の上に死に、三日目からだをもつてよみがえり、天に昇られた。今、神の右に座し、私たちのために大祭司の務めをなしておられる。また、みからだをもって再臨される。
5. 聖霊は人に罪を認めさせ、新たに生まれさせて神の子とし、キリストを頭とするからだの肢体とされる。さらに信じる者の内に住みキリスト者としての生活と奉仕とのために力を与え、贖われた者のうちにキリストの像を形成される。
6. 人類の父祖アダムは神の像にかたどって創造され、はじめ神と正しい関係にあったがサタンの誘惑により神の御意に背いて罪を犯し、死とさばきに服せしめられた。全人類は、このアダムの罪のために生まれながらに罪あるものである。
7. 主イエス・キリストの身代わりの死のゆえに、信じる者はみなその信仰によって義と認められ、罪をゆるされ、その支配から解放される。人が救われるのは、ただキリストを言じる真の信仰によるのであって、その他に救われる道はない。

8. 教会はキリストの体であって、生者と死者を含むすべての真のキリスト者より成り、そのかしらはキリストご自身である。したがって、すべての真のキリスト者はこのキリストのからだに属しており、主によって一体とされている。
9. それぞれの時代、および地域において形成される諸教会は、信仰を告白した者たちの群であって神を礼拝し、礼典を守り、キリストにある一致と純潔をめざして闘い、全世界にみことばを宣べ伝えつつ主の再び来られる日を待ち望む。
10. すべての死んだ者はからだをもってよみがえり、イエス・キリストを信じる者は、すべて義なる者として永遠の祝福に入れられ、イエス・キリストを信じない者は、すべて不義なる者として永遠の刑罰を受け、神から引き離される。終わりに主は、すべてのものを新たにし、御国を父なる神にわたされる。